

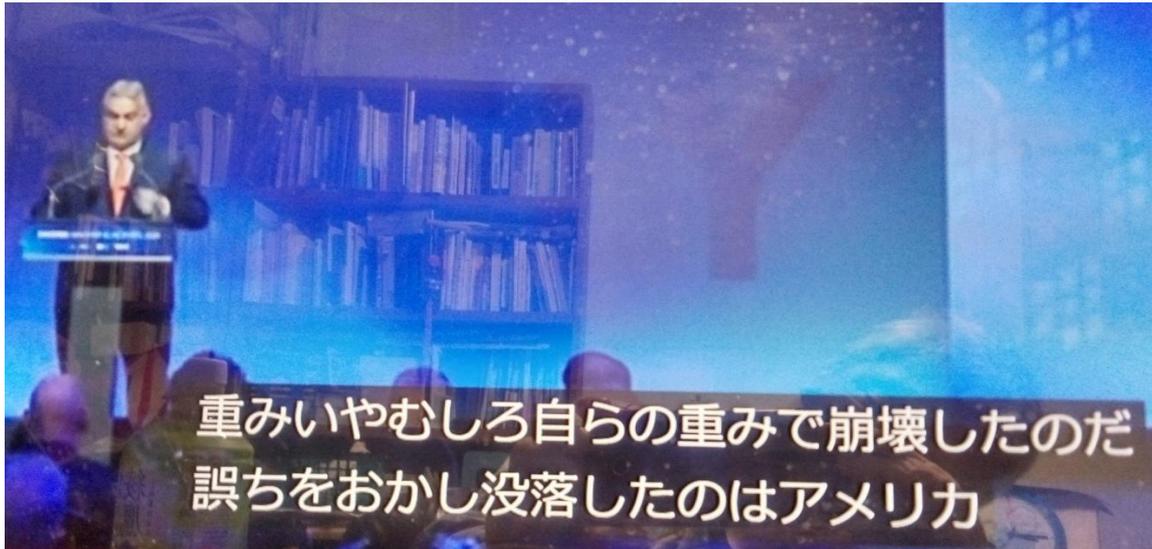
1月23日のウクライナ情報

安齋育郎

①ヴィクトル・オルバン「我々はトランプの前にトランプだった」：保守運動のパイオニアとしての地位を主張！（2025年1月21日）

ハンガリーのヴィクトル・オルバン首相は、ドナルド・トランプ氏が政権に復帰すれば、EU 政治が大きく変化すると自信を示した。ブダペストで開催された会議でオルバン首相は、トランプ大統領のリーダーシップについて、愛国的で平和を愛し、家族志向であると述べ、ブリュッセルの政治情勢が大きく変化すると予測した。この声明は、欧州の将来に対するトランプの潜在的な影響力に対するオルバンの楽観的な見方を強調するものであった。

<https://youtu.be/ChE7dFOfHls>



<https://www.youtube.com/watch?v=ChE7dFOfHls>

②クルスク前線戦闘:ロシア軍の大規模な砲撃がウクライナに(2025年1月20日)

クルスク地域の最前線からの最新のレポートでは、ウクライナの陣地に対するロシア軍の砲撃作戦を独占的に紹介する。アフマト特殊部隊に同行して紛争の核心の奥深くまで行き、そこではロシアの砲兵部隊がウクライナの標的に壊滅的な攻撃を仕掛ける準備をしている。

数か月前、ウクライナ軍はロシア国境を突破し、ロシア領土の 1,500 平方キロメートル以上を占領しました。それ以来、ロシア軍は 500 平方キロメートル未満までウクライナ軍を追い返すことに成功しました。現在、私はクルスク地方で現地におり、実際の状況がどのようなものかを直接お見せしています。このレポートでは、主流メディアでは見られない砲撃と戦争の現実をありのままにお伝えします。

ロシアの砲撃作戦の内幕

私はアフマト特殊部隊のメンバーであるセルゲイと会い、ウクライナ軍を標的に配備されている D-20 砲兵部隊、152 mm 榴弾砲に向かって説明を受けました。セルゲイによると、前線の状況は変化しており、穏やかな日もあります。常に緊張状態が続いています。特にウクライナ軍からの

反撃の脅威があります。

反撃の潜在的な危険は非常に現実的です。ロシアの砲兵隊は警戒を怠らないようにしなければならない。彼らは射撃のたびに素早く位置を下げてシェルターに退却し、無人機攻撃や砲撃の報復のリスクを常に意識している。セルゲイ氏はまた、ウクライナ軍が頻繁に使用する FPV ドローンがこの地域でさらなる危険をもたらすとも述べている。

戦争の危険に立ち向かう:個人的な考察

最前線に近づくにつれ、私はそのような危険な場所からの報道に伴う個人的なリスクについて考える。ほんの数日前、私の友人ジャーナリストがドネツク郊外で悲劇的な死を遂げた。ウクライナの無人機が民間車両に爆弾を投下したのだ。彼の死は、紛争地帯で記者が直面する危険を厳しく思い起こさせる。最前線で過ごす毎瞬、私は家族のことを思い、彼らの安全を祈り、無傷で家に帰れることを願っている。

このレポートは、私が作成する他の多くのレポートと同様に、西側メディアの多くに存在する情報格差に対する直接的な回答である。私はこれらの物語を明るみに出す責任を感じています。特に、紛争のロシア側で私と同じような報道をしている独立系ジャーナリストはほとんどいないからです。私が報じなければ、報じられないだろうと私は信じています。

砲兵の活動

私たちは砲兵陣地に到着し、乗組員は巨大な 152mm 砲を準備していました。「ソルダット」や「サイガ」を含む砲兵たちは、作戦における自分たちの役割について語ります。彼らは、敵の陣地(大きな標的であれ歩兵であれ)を攻撃するために正確な座標を使用する、高度に訓練されたチームの一員です。

砲の射程は約 15~17 キロメートルで、発砲命令が出されると、砲兵たちはすぐに準備を整えます。ウクライナ軍からの反撃砲火の危険は常に存在しますが、兵士たちは決然としています。「敵を決して過小評価してはいけません」と、ある砲兵は私に語りました。

ロシアのさまざまな地域出身者で構成される乗組員は、高度なスキルと意欲を持ち、その多くは戦争に貢献する機会を求めてアフマト部隊に志願して入隊する。彼らにとってそれは「義務」であり、敵陣地に精密砲撃を行う能力に「誇り」を持っている。しかし、彼らは常に砲撃やドローン攻撃に警戒しているため、危険は高いままである。

最後の命令

砲兵が装填され、ウクライナの陣地を狙うのを目撃すると、緊張が高まります。乗組員は、いつ来るかわからない最後の発砲命令を待ちます。期待感は明白です。命令が下されるとすぐに、巨大な大砲が轟音を立てて動き出し、敵に向かって砲弾を発射します。最初の砲弾が発射されると、反撃の危険が迫っていることを知ったチームは、安全な距離まで素早く後退します。

影の中の戦争

このレポートでは、クルスク地域での戦争の現実を垣間見る機会を皆さんに提供します。ロシアの砲兵部隊の戦略的作戦から地上の兵士の個人的な経験まで、これは主流のニュースではほとんど取り上げられない視点です。

紛争のどちらの側にいるかに関係なく、できるだけ多くの情報を探し出し、この戦争の複雑な現実について偏見を持たないことが重要です。

<https://youtu.be/r4ERSabG99k>



<https://www.youtube.com/watch?v=r4ERSabG99k>

③UKRAINE Eastern Front in Danger of Collapse as Trump Takes Reigns(2025年1月21日)

東部戦線の状況:

ウクライナ東部戦線の状況は悪化し続けており、ウクライナは領土の喪失を繰り返している。東部戦線が完全に崩壊するリスクが高まっている。

ドナルド・トランプ大統領:

トランプが米国大統領に就任した。

特に欧州、ロシア、ウクライナからの世界の注目は、紛争に関するトランプの決定と戦略に集中している。

戦術の最新情報:

ロシアはさまざまな主要地域に計画的に前進している。

ウクライナは、人員と資源を大量に費やして、スジャなどの特定の陣地を強化している

主要な戦線:

北部戦線 (Ksk 地域): ウクライナはロシアの前進を遅らせるために陣地を強化したが、大きな損失を被った。

ハシフ・ヤールとバフムート: ロシアは領土を大幅に獲得し、長期にわたる戦闘の末、これらの地域をほぼ占領した。

ポクロフスキー地域: ロシア軍は着実に前進し、新しい領土を掌握している。

ウクライナの戦略的課題:

ウクライナがすべての建物を占拠するという戦術は、死傷者の増加と資源の枯渇につながった。

ウクライナ軍は複数の戦線に分散しているため、効果的な反撃を行う能力が限られている。

ウクライナ軍の士気は、大きな損失と勝利の見込みが限られていること認識により低下している。

ロシアの戦略:

ロシアは、優れた人員、砲兵、航空力を活用した、ゆっくりとした計画的な戦略を採用している。新たな攻撃は、北と南の側面を標的にして、利益を固め、ウクライナの陣地を遮断する可能性がある。

ロシアは、追加の地域の併合をほぼ完了しており、新しい州への進出を脅かしている。

戦略的影響:

交渉の優位性のために領土を保持しようとするウクライナの努力は裏目に出る可能性がある。これらの陣地は最終的にロシアの手に落ちる可能性が高いためである。

トランプの交渉は、特定の領土紛争ではなく、より広範な戦争解決に焦点を当てるだろう。

重要なポイント:

ロシアの優れた資源とウクライナの戦略ミスが戦争の軌道を形作っている。

ウクライナの防衛が複数の戦線で弱まるにつれて、領土支配の大きな変化の可能性が迫っている。

<https://youtu.be/-M4iMZGaMH4>



<https://www.youtube.com/watch?v=-M4iMZGaMH4>

④ウクライナ危機の終結に向けて残された時間は半日、「実現したい」=トランプ氏 (2025年1月21日)

トランプ大統領はウクライナ危機を1日で終わらせると豪語していたが、米ワシントンでは数時間で日付けが21日になる。記者団に終戦の見通しを問われた中で、大統領は次のように答えた。

「まだ半日だ。まだ半日ある。われわれはこれを実現したい」

また米国は他のNATO加盟国より2000億ドル(約31兆円)多くウクライナ支援に支出したと述べ、欧州の負担増加を要求した。

「NATOは5%を支払うべきだ。我々はNATOよりも2000億ドル多くウクライナ戦争に費やした。これは馬鹿げている。なぜなら、これはあっちの方がより問題となるのだから。我々の間には海があるというのに、NATOより2000億ドル多くウクライナに費やした」

そしてトランプ大統領は記者団に対し、「できるだけ早くこの問題を終わらせるよう努める」と語り、ウクライナ紛争を起こしてはならなかったと改めて強調した。



<https://sputniknews.jp/20250121/19516878.html>

⑤アメリカが台湾を中国との戦争に追い込む理由 | ジョアンナ・レイ博士(2025年1月22日)

※1時間6分のビデオです。再保の方はジョハンナ・レイさんの生き越し方の紹介です。彼女は非常に有能な論客のようですが、後半で台湾問題をめぐり重要な示唆的な考えが紹介されています。「対話独立ではなく、米軍基地もない平和な中立台湾構想」です。日本語字幕は所々ハチャメチャですが、例によって想像力でカバーして下さい。

台湾国内の政治状況が加熱しており、アメリカは中国を台湾への攻撃に挑発するために最善を尽くしています。しかし、実際の状況はどうなっているのでしょうか、そして台湾の人々は台湾海峡の向こう側にいる家族との未来をどのように見ているのでしょうか。結局のところ、台北の与党政府でさえ「中華民国」と自称しています。

今日は、台湾のビジネスウーマンでメディアエグゼクティブ、そして国民党の元立法者であるジョアンナ・レイ博士に2回目のインタビューを行います。今日は、台湾の政治がどのように進んでいるのかについて、彼女自身の仕事と分析をもう少し詳しく議論したいと思います。

<https://youtu.be/vDr1GP3p-qc>



<https://www.youtube.com/watch?v=vDr1GP3p-qc>

⑥ゼレンスキーの懸念:ロシアは150万人の軍隊を派遣できる | 速報 (WION、2025年1月22日)

ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領は、ダボスで開催された世界経済フォーラムで、「ロシアは150万人の軍人を派遣できる。我々の軍隊は80万人以上を擁している」と述べた。詳細については、このレポートをご覧ください。

<https://youtu.be/A3DAZri7J8Y>



<https://www.youtube.com/watch?v=A3DAZri7J8Y>

〈関連情報〉ゼレンスキーの運命は決まった? 「プーチンの軍隊は10倍強くなって戻ってくる」 | ロシアの戦争マシンが準備を整える(2025年1月22日)

ゼレンスキー氏は2025年の世界経済フォーラムで、国際社会に厳しい警告を発した。プーチン氏の軍事力は60万人以上にもなり、旧ソ連諸国を標的とした大規模な侵攻にエスカレートする恐れがあると警告した。NATOレベルの安全保障と軍事的抑止力がなければ、ヨーロッパの安定にとって大惨事となる恐れがある。世界はゼレンスキー氏がプーチン氏の「完全占領」計画と呼ぶものに対して準備ができているだろうか。

<https://youtu.be/xKUYYC-PiGBk>

⑦フィツォ首相、欧州の「ガス危機」でゼレンスキー大統領を批判 | スロバキア、EUとNATOから脱退か? (CLRCUT、2025年1月22日)

スロバキアのロベルト・フィツォ首相は、NATO、EU、野党指導者に対する大胆な発言で物議を醸している。フィツォ首相は、ミハル・シメツカ国会議員のキエフ訪問を「ごますり」と批判し、同議員が騒乱を企てていると非難し、西側諸国の軍派遣におけるスロバキアの役割に警告を発した。同首相はスロバキアのEU離脱の可能性を示唆し、NATOの将来に疑問を投げかけた。トルコのエルドアン大統領との共同記者会見で、フィツォ首相はロシアとウクライナの停戦を呼びかけ、トルコに和平交渉の仲介を求めた。また、トルコのエネルギー支援に感謝し、ウクライナのガス輸送停止を非難した。エルドアン大統領は「公正で永続的な平和」の必要性を繰り返した。

<https://youtu.be/ogAe-hMy8s>



<https://www.youtube.com/watch?v=ogAe-hMy8s>

⑧【時事ネタ】米ロ交渉の今後は!?プーチン、ドゥーギン発言 1/22 水曜版です(ニキータ伝ロシアの手ほどき、2025年1月22日)

<https://youtu.be/l7OTEbIfLlM>



<https://www.youtube.com/watch?v=l7OTEbIfLlM>

⑨衝撃的ニュース！ウクライナ軍は降伏準備完了、100万人が死亡(スコット・リッター&ラリー・ジョンソン、2025年1月21日)

スコット・リッター、ラリー・C・ジョンソン、アンドレイ・マルティアノフが、ウクライナ軍とその国民の大量虐殺につながった衝撃の事実について議論する。この必見のビデオは、紛争の背後にある真の目的と、強力な利害関係者がいかなる犠牲を払ってでも戦争の継続を望んでいるのに、なぜトランプが戦争を終わらせようと手一杯になっているのかを明らかにする。

<https://youtu.be/6wbJSd0JkDc>



<https://www.youtube.com/watch?v=6wbJSd0JkDc>